



©Kai Nakamura

茨城県知事賞〔最優秀賞〕水戸市民会館

●伊東豊雄建築設計事務所・横須賀満夫建築設計事務所 共同企業体

第37回  
茨城  
建築  
文化賞

協賛 / (一財)茨城県建築センター (一社)茨城県建築士会  
(一社)茨城県建設業協会 (一社)茨城県設備設計事務所協会  
後援 / 茨城県 (株)茨城新聞社 (株)日本工業経済新聞社  
(株)日本建設新聞社 (株)建設未来通信社





茨城県知事賞 [最優秀賞]

## 水戸市民会館

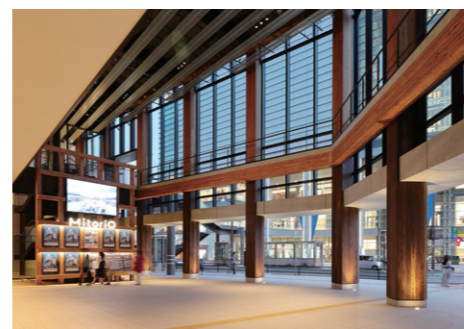
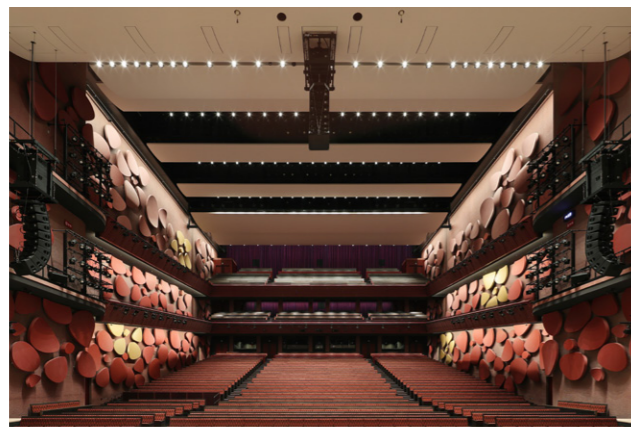
伊東豊雄建築設計事務所・横須賀満夫建築設計事務所 共同企業体

- 住所/水戸市南町2-1-18 アーキビル 電話/029-225-4353
- 協力事務所 構造/Arup 電気/大瀧設備事務所、川又設備計画 機械/イーエスアソシエイツ、根本設備設計事務所
- 建物所在地/茨城県水戸市泉町1丁目7番1号 ●建物用途/劇場、会議室、展示室、スタジオ
- 構造/RC造一部S造、W造 ●建築面積/6,952.37㎡ ●延床面積/23,232.35㎡

### 市民の集うリビングのような水戸市民会館

2000席を有する大ホール、木組みの屋内広場である「やぐら広場」を中心に日常的な利用から国際会議などにも対応した機能と空間を備えた複合的な公共施設である。衰退しつつある中心市街地の活性化を目指して、建物外周部を力強く親しみやすい木造で囲い、あらゆる年齢の人たちが日々気軽に利用できるオープンスペースを各所に配している。国道50号に面する南側は、小規模なスタジオや会議室での市民の活

動や賑わいが街と繋がり、水戸芸術館と大ホールホワイエ向かい合う北側は文化芸術の賑わいをつくり出す。偕楽園の梅の花を模した大ホール観客席の音響反射板ややぐら状の木組み、多様な国産・県産木材を利用した仕上げや家具など水戸が持つコンテクストを活かした施設づくりを行うと共に、優れた音響・設備性能を確保しつつ、地下水などの自然エネルギーを活用した快適かつ省エネルギーな建築を実現した。



写真/中村 絵氏

## 茨城県議会議長賞 [優秀賞] 水戸市下入野健康増進センター

株式会社 三上建築事務所

- 住所/水戸市大町3-4-36 大町ビル2階 電話/029-224-0606
- 協力事務所 構造/株式会社 坂田涼太郎構造設計事務所 機械/NASファミリーデザイン室 施工会社名/株木・菅原・田口建共同企業体
- 建物所在地/茨城県水戸市下入野1944-1 ●建物用途/健康増進等施設(スポーツ練習場、水泳場、公衆浴場)
- 構造/RC造一部鉄骨造 ●建築面積/4,426.94㎡ ●延床面積/4,832.94㎡

### 地元住民の癒しや憩いを提供する、連続した機能を持った集いの場所

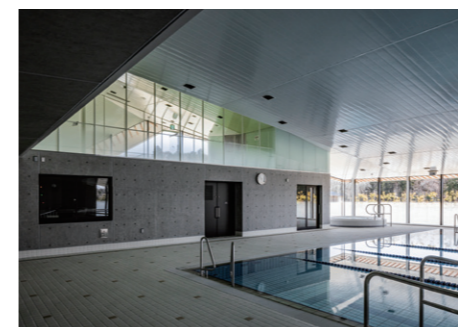
敷地は水戸市の中心部から離れた東部の丘陵地に位置する。造成地における異種の基礎構造を回避して直接基礎とすることを模索した結果、ストラップのような形が浮かび上がり、建物の配置と外形が規定された。

この施設の設置目的は、近隣のごみ焼却場と火葬場による地元住民の心理的負担を和らげるため、癒しや憩い

を提供することであった。主な施設機能は、トレーニング室や多目的室などのスポーツ練習場、屋内プール、公衆浴場である。これらの機能を土地条件から規定された外形の中に割り当てた。機能を持った空間を連続させることで、様々な活動や利用する人たちがつながり、集う場になることを目指した。

そのストラップ状に配置したスパー

スに片流れの屋根を架け、軒先の高さを一定とし、低く抑えることで和風の佇まいを与えた。屋根の裏面となる天井は、内部空間から軒天井につながる。軒下はすべてガラス張りとして、日本的な内部と外部の曖昧な境界を創り出している。



写真/堀内 広治氏







土木部長賞 [優秀賞]

## エーザイ筑波研究所

株式会社 竹中工務店 一級建築士事務所

- 住所 / 東京都江東区新砂1-1-1 電話 / 03-6810-5000 ●協力事務所 サイン/MOTIVE株式会社
- 建物所在地 / 茨城県つくば市東光台5-1-3 ●建物用途 / 研究所 ●構造 / RC/S/SRC造
- 建築面積 / 19,593.63㎡(内、改修部8,690.44㎡、増築部478.15㎡)
- 延床面積 / 65,110.78㎡(内、改修部23,538.27㎡、増築部960.86㎡)

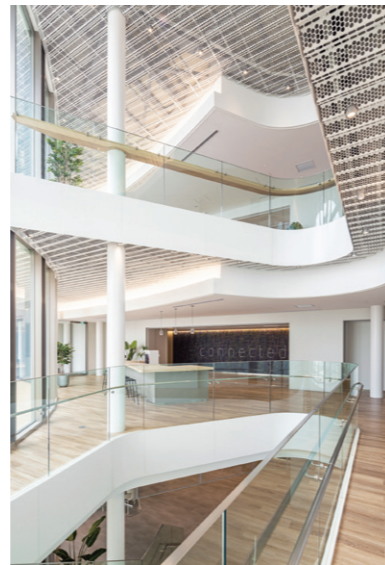
### ナレッジサーキュレーションが研究者間の知の循環を促す歴史ある研究所

開所後41年の歴史を持つエーザイ筑波研究所の大規模改修工事。研究本棟・東棟の内部改修、渡り廊下の新設を行った。

既存の研究所は静かで研究に集中できる反面、研究者同士の顔が見えづらくコミュニケーションの場が少ない、という課題があった。そこで、渡り廊下新設により生まれる回遊動線を「ナレッジサーキュレーション」と名付け、休憩スペース・カウンター・アートによるアイストップなど、研究者の個性が高まる多様な共創の

場を設けることで、研究者間の知の循環を促す空間づくりをめざした。

点在する実験室・居室はフロア毎に集約し、各室の大部屋化や共用実験スペース整備によるオープンな設えとすることで、研究環境の変化に追従する柔軟な施設を実現した。前庭・中庭は既存樹を極力活かすとともに、筑波の生態系に配慮した新設樹木選定を行った。前庭はゆるやかな曲線のアプローチを設け、研究所内外の一体感を意識したランドスケープとした。



[県建築士事務所協会長賞]

## 暁保育園分園

有限会社 吉田建築計画事務所

- 住所 / 石岡市石岡1-1-8 電話 / 0299-56-3246 ●協力事務所 構造 / 株式会社 シェルター 建築設計事務所 電気 / エス・イー・シー 機械 / 白土設備設計事務所
- 建物所在地 / 茨城県筑西市関本上字深町638番1、同番2の一部639番1、同番4 ●建物用途 / 保育所 ●構造 / 木造 ●建築面積 / 519.02㎡ ●延床面積 / 519.02㎡

### 長閑な田園風景と調和を試みた木の園舎

暁保育園のある筑西市関本上は、田畑が広がり敷地西側に小貝川が流れる古くからの集落内に立地します。建物正面のエレベーションは、伸びやかに広がる里の風景とその地形に呼応した、シャープな水平線を印象付けるデザインとしています。また建物の高さを抑えたコの字型のプランとし、長閑な田園風景と木の園舎が調和を試みました。

室内は天井面に設けたトップライトから光が降り注ぎ、木漏れ日が差し込む森の中にいるかのような、自然の暖かみに包まれた木の空間です。空間は大屋根の下に大家族が集うようなイメージ

で、大きなワンルームの空間を0歳児・1歳児・2歳児室を可能間仕切っています。使い方に応じて空間の大きさを調整できます。

保育室の正面の広縁に連続して木のテラスと、深い軒下空間を設けまし



た。夏は日射を遮り、雨の日でも外遊びが可能です。子供たちは、日々の生活の中で自然を身近に感じる事ができます。



茨城新聞社賞 [優秀賞]

## 筑波山観光案内所

株式会社 河野正博建築設計事務所

- 住所 / つくば市研究学園5丁目6-6D12-510 電話 / 029-861-8847
- 協力事務所 構造 / 有限会社 けっそく設計 電気 / 株式会社 池田設備設計事務所 機械 / 株式会社 菊地設備設計事務所
- 建物所在地 / 茨城県つくば市筑波1222番地2 ●建物用途 / 観光案内所・公衆便所
- 構造 / 木造一部鉄筋コンクリート造 ●建築面積 / 274.23㎡ ●延床面積 / 295.95㎡

### 交流から生まれる喜びを感じられる場にふさわしい空間

本設計は、筑波山を訪れた多くの観光客が利用する「筑波山観光案内所」の改築工事である。場所は、筑波山中腹、筑波山神社の赤い大鳥居の近くに新設された。

建物は「賑わい・憩い・安らぎ」を設計理念に据え、国内外のあらゆる方が利用することを想定し、各所に、優しい木の温もり、暖かな日差し、人々の交流から生まれる喜びを感じられる場にふさわしい空間となるよう計画した。

建物は、周辺環境との調和を図り、

土地の高低差を活かしたデザインとした。ダイナミックなプロポーションでありながら、簡素化した木造構造のシステムが木の温かみを感じることができる。また、デッキ部を含めた内部空間には、大きく開放されたガラス面を設けたことで周辺環境との一体化を図り、大パノラマから筑波山が織りなす四季折々の美しい風景を楽しむことができるようにした。同案内所を訪れた方が、筑波山の魅力に気づき、この地域をさらに好きになって頂けることを期待したい。



[住宅部門最優秀賞]

## プライベートコートを楽しむ平屋

株式会社 カナザワ建築設計事務所

- 住所 / 水戸市吉沢町268-3 電話 / 029-246-6812
- 建物用途 / 一戸建ての住宅 ●構造 / 木造 ●建築面積 / 118.00㎡ ●延床面積 / 113.86㎡

### 「プライバシーを保ちつつリビングと繋がった明るい庭」を確保した豊かな心地よい住空間

住宅造成地の角地にある敷地は南西に道路、北東には隣接した住宅があります。

施主様のご要望である「プライバシーを保ちつつリビングと繋がった明るい庭」の空間を確保し、豊かな心地よい住まいを作ることがメインテーマとなりました。その具

体案として、建物と一部塀で囲まれた中庭空間をとり、隣接建物からの視線をカットした「プライベートコート」を実現しました。

また、平屋ではあるが内部空間は高さに変化を持たせ、広がりのある空間と低くて落ち着く空間を明確に分け豊かな住空間をデザインしました。







### [住宅部門優秀賞]

## 町角の家

株式会社 サンハウス一級建築士事務所

- 住所/水戸市見和2-547-3 電話/029-257-6566
- 建物用途/一戸建ての住宅 ●構造/木造 ●建築面積/83.22㎡ ●延床面積/109.30㎡

### 町に開きつつも暮らしを守る住まい

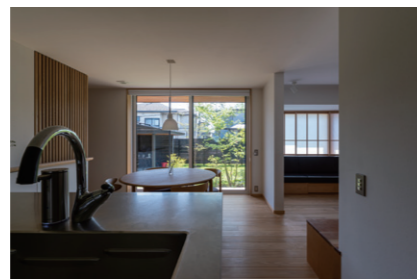
共働きのご夫婦と幼い子供2人の住まい。

敷地は団地の角地。町に開きつつも暮らしを守る、そんな住まいを心掛け設計した。山側の循環を意識し、外壁に国産材の焼杉、内装にも県産の杉を多用した。

住まい手の在宅での働き方や、休日に外出しなくても寛ぎたい。との暮らし方の希望に寄り添えるように、住まいと庭の在り方を模索し提案した。

住まいの長寿命化のためには、性能値を示す公的な評価が大切と考え、UA値は0.28、耐震等級3を確保し長期優良住宅の認定やBELS☆☆☆☆☆を取得。

2050年カーボンニュートラルに向けて、付加断熱を施し、冷暖房は、夏冬共に1台のエアコンで賄える高断熱住宅とし、太陽光発電パネルや「おひさまエコキュート」を設けたことで、日中発電した電気の即時利用を可能としたZEH(ゼロエネルギー住宅)。



### [入選]

## GRANBERRY DAICHI

株式会社 andHAND 建築設計事務所

- 住所/つくば市東新井29番地13 電話/029-855-3055
- 協力事務所 構造/秋桜構造計画 電気/こすも設備設計 機械/加藤設備設計事務所
- 建物所在地/茨城県常総市三坂新田町字向田31-1,31-2,31-3(仮番地)
- 建物用途/その他(観光農園)物販店舗+飲食店+工場(食品加工)+事務所+倉庫(非倉庫業)
- 構造/鉄骨造 ●建築面積/964.649㎡ ●延床面積/869.12㎡

### 敷地全体が広場のような体験型観光農園

圏央道常総ICを降りてすぐの、3万7千平方メートルの敷地に、「空中いちご園」としてオープンしたGRANBERRY DAICHI。

大きく広がるビニールハウスへ誘う、受付、エントランス、カフェ、販売スペース、取れた苺の加工ができる観光農園施設の計画です。

メイン通りと農園、内外空間を結ぶ中間領域となる、三角の大屋根のGRAN GATEが、ここに訪れた観光客や地域の人々を迎える、ハブとなります。

筑波の山並みと呼応する連続的な切妻屋根は、奥に並ぶビニールハウスと相重なり、敷地内の建築の一体性を図りながら、メイン通りから、カフェ・販売スペースへと誘い、空間に緩やかな抑揚を創出します。

GRAN GATEをくぐるとビニールハウスと空の風景が広がり、屋上テラスからもメイン通りより左右に広がるビニールハウスを眺めながら、お茶をしたりお酒を飲むことのできる、まさに「空・食・憩・癒」を感じられる、敷地全体が広場のような体験型観光農園を実現しています。



### [住宅部門優秀賞]

## 六ツ野の家

coba設計

- 住所/水戸市千波町1486-8 電話/090-4837-8727 ●協力事務所 構造/株式会社 オセヤ一級建築士事務所
- 建物用途/戸建て住宅 ●構造/木造 ●建築面積/88.70㎡ ●延床面積/114.31㎡

### 家族が程よい距離感をもってつながり暮らせるようなワンルームの住まい

ひたちなか市六ツ野、緑が点在する落ち着いた住宅街に建つ住まいです。

将来、周辺には住宅が建ち並ぶことから、生活の中心を半階上がった1.5階にすることで、冬場の日照を最大限利用しながら、1・2階との距離も近づき、家族が程よい距離感をもってつながり暮らせるようなワンルームの住まいとしました。

住宅の構成は、1.5階の部分に広間や台所、水周りや収納といった生活の中心となるスペースをまとめ、そこから少し上がった2階には在宅仕事のための書斎と子供部屋、さらにロフトには畳のスペース。

ベース。少し下がった1階には主寝室と納戸、そして1.5階の床下部分を物置として利用する断面的、立体的な繋がりを大切にしたい計画になっています。

また家全体を高断熱でしっかりと包むことで、窓から入る太陽やエアコンの熱を効果的に保温し、室温が一定に保たれることもワンルームのつながりのためにとっても大切なことであると考えました。



### [入選]

## 水戸の美容室

合同会社 AAOA一級建築士事務所

- 住所/東京都文京区水道2丁目5-23 3階 電話/03-3868-2107 ●協力事務所 構造/平岩構造計画
- 建物所在地/茨城県水戸市元吉田町2193-5 ●建物用途/美容室 ●構造/木造 ●建築面積/99.64㎡ ●延床面積/119.04㎡

### 場所の特異点を浮かび上がらせる造形

敷地の東側には江戸末期に建てられた庄屋の居宅があり、この土壌に囲まれた平屋との関係から外形の可能性を探った。まず、前面道路と隣地境界線に寄せて外壁を設け、その上部に異形の三角屋根のボリュームを浮かせつつ建物全体の高さを抑えることで、量感のある寄棟屋根が土壌に切り取

られて見える近傍の特徴的な現れ方に直載に応答した。店舗の構成は簡潔明瞭であり、平面計画に準じて配された間仕切り壁などの各要素は、いずれも機能的な要求に従って位置が定まっています。外郭の対角線を結ぶ鉄筋コンクリートの十字型の梁や独立柱の配置との直接的な対応関係はない。空間の

認識は平面計画には委ねられず、前景化するオブジェクトの幾何学に先導されることで、その拠所をインテリアのみならず、近傍の場所の質へと押し広げていく。均質な風景が広がる郊外に特異点を炙り出すことで、この場所に持続的に関わりながら生きる主体性を喚起したいと考えた。







【入選】

## 日立建機土浦工場 Orange Innovation Plaza

株式会社 日立建設設計 第一設計本部一級建築士事務所

●住所／東京都千代田区内神田3-11-7 電話／03-6757-7100  
●建物所在地／茨城県土浦市神立町650番地 ●建物用途／事務所 ●構造／鉄骨造 ●建築面積／4,499.86㎡ ●延床面積／26,025.03㎡

### 町に開きつつも暮らしを守る住まい

従業員の生産性向上とイノベーション促進を図るために新しい働く環境の構築を目的としたオフィス建替計画。従業員とWSを開催し、これからのあるべき働き方を考え、多様性・快適性・コミュニケーションの3つのコンセプトを立案した。WSの中で、部署内の交流の良さに対して部署間の交流が不足しているとの意見も挙がった。そこで様々な人が偶発的に出会い、協創が生まれる立体的な“街のような”オフィスを作り上げ、時間や場所を柔軟に選んで働ける環境の【多様性】を実現した。共用部にはコミュニケー



ションスペースのほかに、カフェやバルコニーなどを配置し、従業員がそれぞれのタイミングでリフレッシュでき、心身ともに健康に働くことができるサードプレイスによって【快適性】を提供した。人と人が偶発的に出会う仕掛けを作り出すことで、部署内で完結していた活動を超越して生み出せる【コミュニケーション】の相乗効果・協創を目指したオフィスである。



【入選】

## 茨城キリスト教学園高等学校4号館

株式会社 竹中工務店 一級建築士事務所

●住所／東京都江東区新砂1-1-1 電話／03-6810-5000 ●建物所在地／茨城県日立市大みか町6丁目4048番地1他  
●建物用途／高等学校 ●構造／RC造 ●建築面積／746.57㎡ ●延床面積／2,158.34㎡

### 敷地の潜在力を生かし、新たなアクティビティを生む学び舎

自然豊かなキャンパスに建つ高校教室棟の計画です。外観は伸びやかな水平ボリュームを全面的銀杏並木と呼応した壁柱で支持する構成としました。

起伏のある敷地形状に対して「懸造り」のような建ち方とすることで、地形を顕在化させています。また敷地南側の校庭と北側の既存校舎群の関係性が

旧校舎によって分断されていたところを、校庭と既存校舎群を南北に繋ぐピロティや内外一体の階段教室を計画し、新たな回遊動線、アクティビティを創出しています。

内部は教室、廊下、共用部を南側から順に配置したシンプルな平面構成としました。教室はボイドスラブ・逆梁・壁柱を組み合わせた構造により、柱・梁型の出ない整形な空間とし、天井は吸音性能のある木毛セメント板を打ち込んだ直天井とするなど、最小限の要素で構成されたシンプルで豊かな学びの空間を実現しています。



## 茨城建築文化賞 第37回

審査委員 ※敬称略・順不同・役職は令和6年3月現在

熊澤貴之氏(国立大学法人茨城大学工学部都市システム工学科教授)  
加藤研氏(国立大学法人筑波大学芸術系助教)／梅本舞子氏(国立大学法人筑波技術大学産業技術学部産業情報科学科准教授)  
山田陽一氏(茨城県土木部都市局建築指導課長)／小沼紀男氏((一財)茨城県建築センター理事長)  
柴和伸氏((一社)茨城県建築士会会長)

### 茨城建築文化賞の講評

茨城大学 教授 熊澤 貴之

#### 【第一次審査の経緯】

第37回の令和5年度は2024年3月19日に審査委員6名が出席して第一次審査を実施した。今年の応募作品数は28点(内訳:大規模建築(7点)、小規模建築(9点)、住宅(9点)、リフォーム(3点))であり、小規模建築から大規模建築まで幅広い応募があった。応募総数は例年とほぼ同様となっていた。作品には質が高いものも多く見られ、審査会では深い議論が繰り広げられた。

まず、審査委員が第一次審査会場に展示された全作品を審査した後、一人5票の持ち点で住宅、リフォーム、建築の大小、種別を問わずに投票した(第一回投票)。その結果、4票以上を獲得した作品(3作品)を第二次審査(現地審査)の対象とした。また、1~3票を獲得した作品(11作品)に対して一人2票の持ち点で種別を問わず投票した(第二回投票)。その結果、4票以上獲得した作品(2作品)を第二次審査(現地審査)の対象に加えた。さらに第二次審査(現地審査)の対象になっていない作品を対象に、一人5票の持ち点で種別を問わず投票した(第三回投票)。その結果、5票以上獲得した作品(5作品)を入選に選定した。入選以上に選定された作品には住宅作品が含まれていなかったため、住宅作品を対象に再度、投票し、最も票を獲得した住宅作品(1作品)を住宅部門の最優秀賞に選定し、次いで得票数が多かった住宅作品(2作品)を住宅部門の優秀賞とした。リフォーム賞においては、上記の過程において票を獲得した作品がなかったため、議論の結果、該当する作品をなしとした。

その後、第二次審査(現地審査)の対象となっていた作品(1作品)の応募者が該当する作品を取り下げたため、第二次審査(現地審査)の対象は4作品となった。

#### 【第二次審査の経緯】

4月20日に審査委員6名が4作品を現地で審査した後、第二次審査会場に移動した。まず審査員全員が、周辺環境条件との調和、現代的課題への提案、まちづくりへの貢献、構法・機能的な解決策、建築文化としての伝承と発信、美しいデザイン性等を主な評価軸として、4作品を講評した。その後、個々の賞に対して一人1票の持ち点で投票した。

その結果、“水戸市民会館”が最高得票数を集め知事賞に決まった。順次審査対象作品に対する投票を行い、“水戸市下入野健康増進センター”が議会議長賞に、“エーザイ筑波研究所”が土木部長賞に、“筑波山観光案内所”が茨城新聞社賞に決まった。続いて、茨城県建築士事務所協会会長賞について議論し、入選作品の中から最も票を獲得した“暁保育園分園”を繰り上げ、茨城県建築士事務所協会会長賞に選定した。

#### 【現地審査に基づく入賞作品についての講評】

##### ■知事賞／水戸市民会館

伊東豊雄建築設計事務所・横須賀満夫建築設計事務所JV 2000席を有する大ホールはハレの空間として非日常性を演出している一方、立体的な格子状の木組み構造体で覆われた屋内広場と館内の随所に設置されたラウンジやギャラリーは市民のためのリビング空間として日常的に使われており、ハレとケの空間が融合した質の高い空間が広がっている。また、建築の内外装に多用されている矢羽根のデザインや梅をモチーフにした大ホールの音響反射板など、水戸の伝統的文化を彷彿させるオリジナルなデザインが、コンクリートと木でつくられたダイナミックな空間の中できらりと輝くように挿入されており、これらが水戸のアイデンティティを醸成し、街を歩く楽しさを高めている。加えて、中心市街地における再開発事業に基づく建設プロセスで、官民の長期に渡る献身的な努力が今日の水戸市民会館の姿を形作っていると推察される。以上から、建築文化賞に最も相応しいと審査員全員によって評価された。

##### ■議会議長賞／水戸市下入野健康増進センター

##### 三上建築事務所

宏大な丘陵地を背景に、一続きの大きな片流れ屋根が連なって建物の周囲を覆っている。この大屋根の足元周りはガラス張りとなっているため、大屋根は地面から浮遊するように見える。浮遊する大屋根は地域のランドマークになり、軽快で健やかな施設のイメージを創り出している。また、利用者の動線はシンプルで分かりやすく、機能的な平面構成となっている。利用者は屋根の軒下空間に連なる内部と外部の中間領域を各所から眺めることができる。機能的でありながら、場所の特性を生かした特徴ある建築ファサードを生み出していることが評価された。



■土木部長賞／エーザイ筑波研究所

竹中工務店一級建築士事務所

新たなワークプレイスとして、アクティビティ・ベースド・ワーキング (ABW:Activity Based Working)の導入を目指し、既設の各棟を結ぶ動線上にワーカーがコミュニケーションし、リフレッシュする空間を新設している。この空間は外庭に面した三層の渡り廊下となっており、縦方向はヴォイドと階段で接続され、横方向はテラスを介して外庭とつながり、渡り廊下の全体が外庭と一体となるようにつくられている。築41年を経過した既存建築群を利活用しながら、ワーカーの働きやすさを優先に考えてコミュニケーション空間を新たに組み込み、サステナブルなワークプレイスを実現している。

■茨城新聞社賞／筑波山観光案内所

河野正博建築設計事務所

来訪者は筑波山中腹部に位置する大きなガラス張りの開口面から眼下に広がる関東平野の絶景を眺めることができ、同時に木質の天井と壁に包まれて、木の温かみを感じることができる。シンプルな外形の中に広がる「ガラス張りの大開口部からの眺望」と「内部空間の木質」が共生する空間デザインとなっている。

■茨城県建築士事務所協会長賞／暁保育園分園

吉田建築計画事務所

外観は横に広がるデザインとなっており、田園風景と木の園舎が調和している。内観を見ると、トップライトからの光が木の柱や梁の隙間を通して降り注ぎ、木漏れ日のような自然の暖かみのある空間となっている。また、深い軒下空間は日射を遮り、雨の日でも外遊びを可能にしている。全体的に子どもたちの木育という面で優れた空間となっており、木造建築の可能性を広げている。

以上、本年度に選考された上記の5作品は技術的な工夫を成し遂げた上、それぞれに個性を持った新しい空間が導かれ、意匠、構造、設備が統合した新しい建築の姿を生み出している。今後も本賞の趣旨に謳われた目的に叶う「一つの建築として完成度の高い作品」を見出すべく審査に臨む思いでいる。時代の求める課題に応え、チャレンジングな提案性ある新たな作品を次年度も期待したい。

※建築文化賞の表記は、申し込み時点のものとなります。